



TITLE:

朝鮮開城の瞻星臺を見る

AUTHOR(S):

宮澤, 堂

CITATION:

宮澤, 堂. 朝鮮開城の瞻星臺を見る. 星 1930, 5: 5-8

ISSUE DATE:

1930-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/169020>

RIGHT:

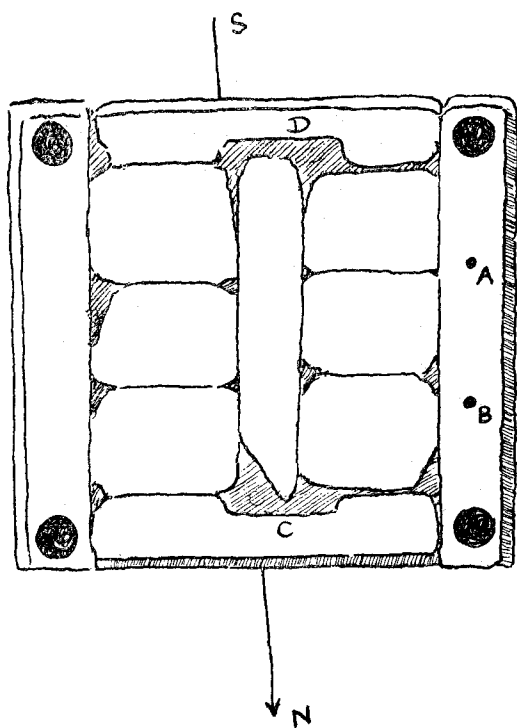
朝鮮開城の瞻星臺を見る

毎日日向ぼっこをしながら椽側で黒點の觀望やら讀書などをして居りましたが、色々の花が窓外に見え始めたこの頃では、太陽の高度が大分増してもう椽側では太髯のほくろにお目見えする事が出来ない様になりました。それと同時に陽氣も急に暖くなりましたので櫻の花も、もう一週間か十日もしたら開く事と思はれます。去年は、日食觀測のために櫻の花を見ずにしましたので、今年は早く見たいものと、夕方の散歩には近くの櫻林を通り抜けて、町を一周して来る事に定めて居ります。町と云つても大變な田舎で、町の事などに就てお便りをする様な事などありませんが、この開城は昔高麗朝時代の都でありましたために、町の近くには色々の興味多い歴史的な事物がありますので面白い所だと思つて居ります。これ等のものを見て昔の朝鮮の天文に關する迷信や、星を觀測した事實や、曆等の事を調べて見たいと思ひまして、ぼつぼつ初めて見ましたが、この方面に對する基礎知識がありませんので思ふ様に調べる事が出来ません。その様な譯で、聞いた事讀んだ事等を正しくノートに書き集め又寫眞に撮れるものは撮つてこれを歸りの土産にして、どなたかに見て頂きたいと思つて居りま





す。これ等の中で特に私が面白いと考へましたのは、高麗朝時代の瞻星臺であります。寫眞を撮りましたからお送り致します。慶州に現在あります瞻星臺は、有名なものでありますが、私はまだ見ませんので歸りにでも見たいと考へて居ります。この寫眞に撮りました瞻星臺は開城の西北方一里餘りの所に満月臺と云ふ所がありますが、その近くにあります。形が小さいのと、林檎畑の中にかくれて外から餘り目につかないので人の興味をひかないためでありますか殆んど知られて居らない様であります。この満月臺と云ふ所に高麗の王宮がありますので（王宮と云つても今は土臺石以外に何もありません）見物に参りました折に、王宮のはるか西方の畠の中に石の臺の様なものがあるのを妙なものがあると思つて居りましたが、それ



が瞻星臺でありました。高さ七尺餘りの五本の石の角柱の上に平らな石が六枚しきつてあります。何か上面に變つたものがある様に考へられましたので上つて見ますと圖の様に四隅に直径は、13 廻深さ 9 廻の穴があるのに目がとまりました。これは多分昔時この穴に柱をたて、あつたかと思はれます。この他に西方の端に二箇の (A, B) 小さな穴がありますが何のために作られたのか想像が付きません。も一つ南北の端に (C, D) 長方形のくぼみがあるのに興味をひきましたがこれが何であるか、又何のために作られたのか想像に苦しみます。とにかく瞻星臺は私にとつては思ひもよらぬ見つけものでした。書物に依て調べて見ますと高麗朝初期に作られたもの、様に思はれますが如何でせうか。今は概略のお知らせをさせて頂くにとづめます。

朝鮮開城元町

宮 澤 堂

新たに定められた星座の境界圖の一部

